

辺野古へ

行ってききました。

テトラポットの無い海が広がる。浜辺にうちよせる波は穏やかで、遙か沖合にはサンゴ礁のリーフのありかを示す白波がたっている。世界有数の生態系の存在を誇る大浦湾・辺野古の海はやはり美しかった。

キャンプ・シユワブのゲート前には早朝から多くの県民や全国各地から来た人々が座り込む。辺野古新基地建設は大浦湾を埋め立てるだけでなく基地内の米軍兵舎、施設等の建て替え工事も進め

られているからだ。工事車両の出入りのたびにゲートは開かれ、その前に座る人々を機動隊が排除する。それは日に何度も繰り返される。非暴力実力阻止の行動で建設計画は大幅に遅れている。遅らすことができています。

「民主主義がつぶされようとしている。それを見ている私を許すことができなかった。だから、ここにいる」「嘉手納基地のなかに家はある。サイパンで捕虜になって以来七二年間、私は戦争難

民である」「嘉手納爆音訴訟を闘っている。健康被害よりも国の対応に憤りを感じる」「去年の秋に安保法制を成立させた安倍首相は憲法を改正し、『緊急事態』を盛り込むうとしている。それはワイマール憲法のもとでナチス独裁へと進んだのと同じ道」様々な思いを胸に人々は座り込む。

そして、三月五日「辺野古新基地の埋め立てをめぐる代執行訴訟で安倍首相が工事中断を含む暫定的和解案を受け入れた」と報じられた。「今回、工事は一年

以上、止まるだろう」とも言われている。一夜明けてゲート前では「政府に屈しないぞ。辺野古移設断念まで心をついにしたたかおう」という声が発せられている。なんとなく辺野古へ行ったらあかんと思っていた。





ヤマトンチユーは本土でアベをなんとかせなあかんと思っていた。今もそう思っているのだが、行ってよかった。闘いの現場に立って、空気を吸って、居あわせた人たちと話をして、排除されるくやしさを噛みしめて帰ってきた。だからこそ工事中断

報道を受けた後のゲート前での人々の力チャーシーを目に浮かべることができ。それは私にとってエネルギーになるような気がする。

【編集委員 T・M】



官民連帯集会に集まろう！

港地区平和人権連帯会議に結集する官民、単産・単組において16春闘の闘いが始まっています。

16春闘の勝利に向けて、港地区の伝統である官民労働者の団結の力を示しましょう！

恒例の春闘勝利！官民連帯集会に港合同も全力で結集しよう！

日時 3月18日（金）18：30～

場所 入舟公園（港区八幡屋）

港合同組合員 全員参加

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！